

## LPガスCP速報(2022年8月積)

### 1. 8月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **670**  $\text{ドル}$  (前月比-55  $\text{ドル}$ )

ブタン **660**  $\text{ドル}$  (前月比-65  $\text{ドル}$ )

#### ① LPガススポット市況等

原油市況が乱高下するなか、LPガス市場をみると、不需要期でプロパン需要は減少、ブタンは石化需要が減退、天然ガス代替需要が下支えも市況は軟化した。中東市場は、原油増産で産ガス国の供給は潤沢であったのに対し、輸入需要は、ロシア原油を大量に購入した中国、インドともに国産増で低迷、PDH需要も石化市況低迷によるマージン悪化で稼働率が低下して減退。極東CFRは、プロパン、ブタンともに月初の775  $\text{ドル}$ から第3週にはプロパン700  $\text{ドル}$ 、ブタン695  $\text{ドル}$ まで下げ、ブタン安が顕著になってきた。

米国市場をみると、不需要期も輸出は堅調、高水準が続いている。全米プロパン在庫は19週連続で増加も積み上げは抄らず、5年平均レンジの下方(グラフ②)。モンベルビュープロパンスポット価格は、在庫増を受けて軟化、上旬は610  $\text{ドル}$ 台で上げ下げも、中旬以降は600  $\text{ドル}$ を下回って推移した。MB月間平均は前月比37  $\text{ドル}$ 続落の595  $\text{ドル}$ どころ(グラフ①)。

フレート市況は、船舶需給にタイト感がなく軟化した。中東産ガス国の供給増とインドでの滞船が押し上げ要因となったが、不需要期のうえPDH需要は減退、備船需要減退で市況は弱含んだ。パナマ運河の滞船が10日前後まで増加、米国市況への影響が懸念されるどころ。

ナフサは続落。上旬は880~850  $\text{ドル}$ のレンジで推移、中旬に800  $\text{ドル}$ を割り込むと750  $\text{ドル}$ ~780  $\text{ドル}$ での展開となり、月間平均は前月比30  $\text{ドル}$ 下落の790  $\text{ドル}$ どころ。石化需要が振るわず、石市況の軟化が響いた。ブタン市況の下押し要因となった。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は月間平均で前月比115  $\text{ドル}$ 続落の500  $\text{ドル}$ となった。また、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同220  $\text{ドル}$ 急落の1,120  $\text{ドル}$ どころ、世界的低水準在庫により高騰しているガスオイル価格もピークを過ぎ、両油種の格差は620  $\text{ドル}$ と105  $\text{ドル}$ 縮小したが、LSMGOはC重油の倍以上の価格。

8月CPは前年同月比プロパン10  $\text{ドル}$ 、ブタン5  $\text{ドル}$ それぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン1、ブタン2ポイントそれぞれ低下、前年同月比ではプロパン33、ブタン34ポイント低い。2019年9月以来の低水準。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	68	70	68	73	70
CP先物指標：P	725	715	670	685	699
CP先物指標：B	725	710	665	670	693

#### ② 原油市況等

7月の原油市況をみると、月間平均では3ヶ月ぶりの反落となったが、依然ボラティリティが高い状況が続いている(WTI期近終値：安値22日94.70  $\text{ドル}$ 、高値1日108.43  $\text{ドル}$ )。インフレが加速し、米金融当局の大幅な金利引き上げに伴う景気後退懸念と供給不足不安との綱引きで市況は乱高下した。米国はドライブシーズンでガソリン需要期にもかかわらず市況高騰で需要低迷が顕在化、中国のコロナ感染再拡大により行動制限が繰り返されたことも尾を引いた。一方、供給はロシアへの制裁強化や、産油国の政情不安による供給障害もあり、6月のOPECプラスの生産量は目標を284万b/d下回る水準となった。8月3日開催予定のOPECプラス会合では9月も現行生産水準を維持する方向で検討されるもようだ。米国の原油生産量は2020年4月以来の1,200万b/d超、直近の原油輸出は過去最高の455万b/dを記録し、米国産原油への需要増が顕著になっているが、米国の原油在庫水準は5年平均レンジの下方で推移、戦略石油備蓄原油は前年同期の8割を切っている。

○7月積みアラビアン・ライト(7月1~29日までの想定)は109.66  $\text{ドル}$ (前月比-7.83  $\text{ドル}$ )

熱量等価AL100% プロパン899.10  $\text{ドル/トン}$  ブタン886.77  $\text{ドル/トン}$

AL比 プロパン74.52% ブタン74.43%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

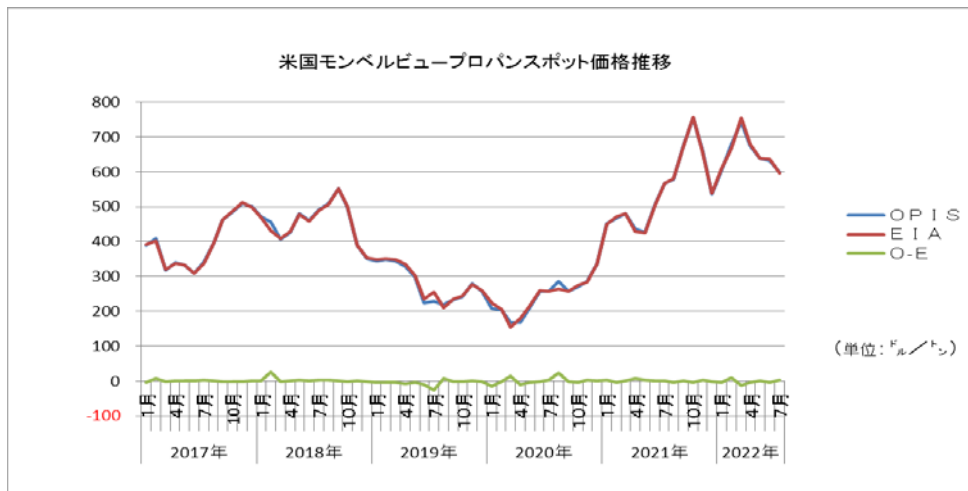
## 2. 2022年8月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
①20日締め	137.42	107,300	105,600	-2,500	-3,300
②末日締め	137.79	106,500	105,500	-4,300	-5,100

\*TTS平均について、①が6月21日～7月20日、②7月1～31日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①、②ともに中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。

なお、上記MBは7月28日までの価格を基にEINで試算（595ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

### ①米国プロパンスポット価格推移



### ②全米石油（原油・ガソリン・留出油・プロパン）在庫推移

